

令和6年度 探究発表会(ゼミフェス)によせて

高校と大学との実効的な連携(高大接続)のために

～本校の探究学習をご支援・ご指導くださる大学の先生方へ～



【題名】Cintai bumi / Love the Earth / 地球を愛そう

2023年度アートマイル国際協働学習プロジェクト「外務大臣賞」受賞(宮城野高校×インドネシアのSMA Santo Paulus Pontianak)

宮城県宮城野高等学校 普通科 美術科

MIYAGINO HIGH SCHOOL THE PROVENANCE OF INNOVATIO

高校と大学との実効的な連携（高大接続）のために

～本校の探究学習をご支援・ご指導くださる大学の先生方へ～

宮城県宮城野高等学校 校長 早坂重行 博士（教育情報学）

いつも大変お世話になっております。本校の探究学習へのご支援・ご指導に衷心より感謝申し上げます。

さて、高校における近年の探究学習の隆盛により、高校と大学の連携で課題となっていることがあると認識しており、はなはだ恐縮ではございますが、あらためてご理解をお願い申し上げたいことがございます。ご存知の通り、高校の教職員は、授業、担任、校務分掌その他の業務があり、探究学習だけをやっているわけではありません。探究学習はあくまでも、カリキュラムの一部です。それは、生徒にとっても同じことです。それで、本校では、あくまでも『学習指導要領』を基準に、探究学習のプロセスを踏むことを中心に生徒の学びを進めております。本校は探究学習の理念として、「デザイン思考」を重視しているので、探究学習のプロセスの中で、「間違ふこと」そして、「質問すること」に重きを置かせて、実践しています（図1）。教職員には「進行管理」そして「評価（意欲づけ）」に重点を置いてご指導いただくようお願いしています。おかげさまで、本校の探究学習の取り組みは、全国的にも注目されていて、VIEW（ベネッセ）、Guideline（河合塾）などの全国広報誌に取り上げられています。最近では、国際・語学ゼミがアートマイル国際協働学習プロジェクトで、外務大臣賞を受賞いたしました。本校の美術科と総合学科の流れを汲んだ普通科の特色を活かしたSTEAM・DX教育が評価されたと

考えております。

小職が課題だと考えているのは、探究学習と大学での学術研究を混同とはいかないまでも、意識的にあるいは無意識的に、探究学習を指導する際の基準として学術研究を考えている高校があることです。小職は、SSH校、SGH校における理数科の教科である「理数探究」の指導と「総合的な探究の時間」の指導を混同している状況があるのではないかと推測しております。そもそも「理数探究」も個人的には、高等学校における基礎的な学問の学びと、大学におけるリベラルアーツの学びを踏まえないで、学術研究的な学びが成立するのか、高校生の教科として適切であるのか、はなはだ疑問です。また、高校の先生方に本格的な学術研究の指導をしていただくのは、過重負担だと考えております。さらに、残念ながら、はなはだ失礼ではございますが、高校の現場の状況をあまり理解されていない大学の先生もいらっしゃるのも事実です。これは、高校側の努力不足が主な原因と自戒しております。

小職は、高校現場での実践をする上で、学問の専門性の重要性を痛感し、働きながら博士号（教育情報学）を取得しました。現在もアカデミックな研究を続けております（注）。そこで、学術研究の面からは、生徒や教職員に助言したいことはたくさんあります。しかしながら、管理者として上記のように考え、本校の教育活動をマネジメントしております。

本校では、本校開学の理念である自由をコンセプトに、生徒には将来のための自主性・自律性の涵養を重視し「自立した学習者」、教職員には能力を十分に発揮してもらうための「時間的にも、精神的にも余裕を持った働き方」ということを目標として教育活動を行っております。そこで、高校現場の背景にある上記の高校の生徒の学びや教職員の働き方の現状、本校の探究学習に対する考え方をご理解いただいた上で、大学入学後、高校での探究活動の経験が有益になるように、本校に対するご支援・ご指導をしていただくよう、お願いする次第

です。今後、探究学習そして高大接続について、忌憚のない情報交換をさせていただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(注) 最新の研究成果としては、「教師の自発的なメンタリングはどのようにして実現し、何によって促されるか？」『質的心理学研究』第22号 2023年 新曜社

また、令和6年9月27日(金)～29日(日)に東北大学青葉山新キャンパスで行われる大学入試学会第1回大会での研究発表を予定しております。

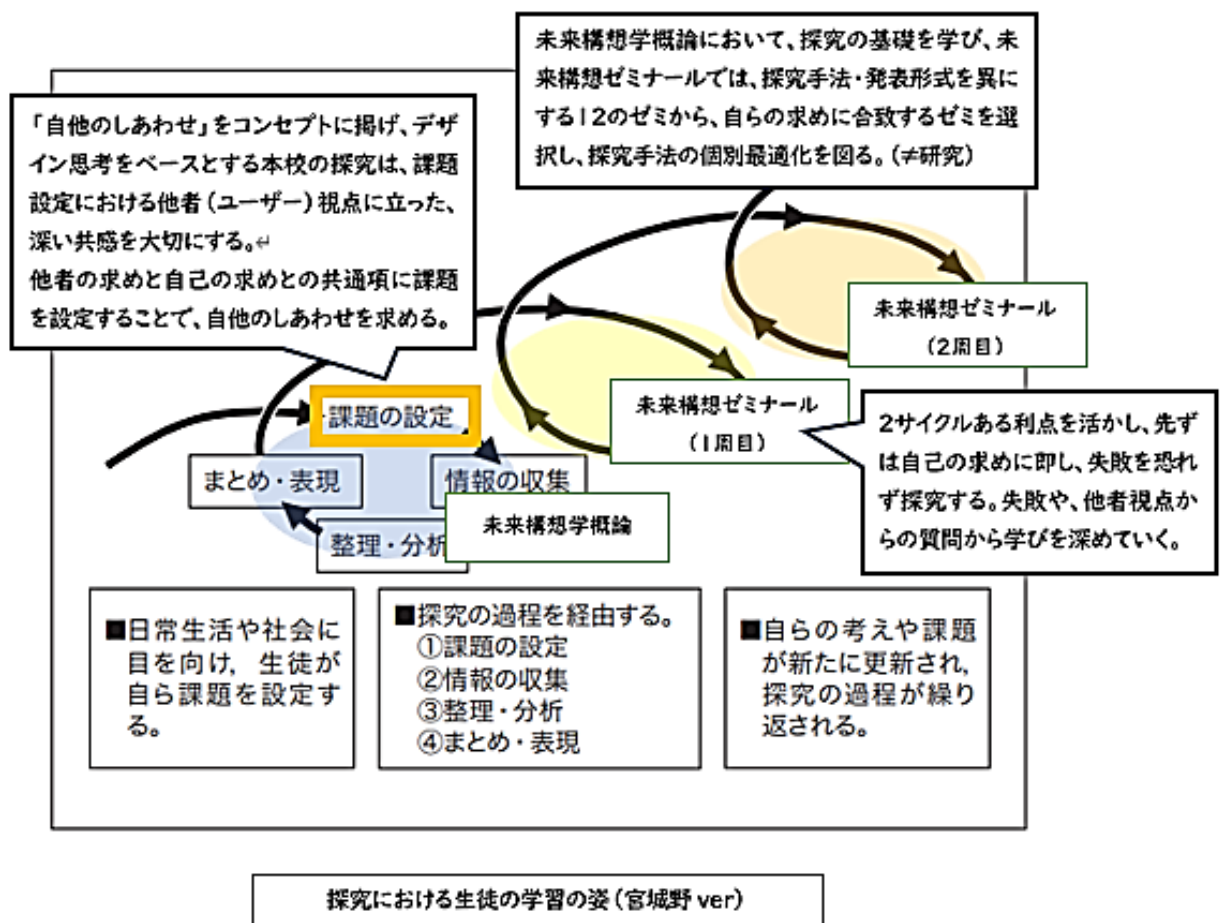


図1 伊藤, 早坂 2024(文部科学省(2023)より改変)



この資料は、令和6年8月29日に宮城野高等学校で開催した『探究学習発表会(ゼミフェス)』において、大学の先生方(助言者)にお渡ししたものです。

